

令和6年度学校評価表

栃木県立那須清峰高等学校

教 育 目 標		Specialistとしての Spirit・Sense・Manner を有する技術者の養成		
本年度の努力点		(1) 学習環境を整えるとともに、学習習慣を定着させ、生徒の学力向上に努める。 (2) 基本的な生活習慣を確立させ、相手を思いやる豊かな人間性の育成に努める。 (3) 特色化・魅力化を推進し、地域から信頼される学校づくりに努める。 (4) 部活動及び特別活動を充実させ、健全な心身の育成に努める。 (5) キャリア教育の視点を踏まえた体系的な進路指導の充実に努める。		
評 価 基 準		十分満足できる・・・A 概ね満足できる・・・B 努力を要する・・・C 一層努力を要する・・・D		
評 価 項 目		①学校運営 ②学習指導 ③生徒指導 ④進路指導 ⑤特別活動 ⑥読書指導 ⑦健康指導 ⑧施設設備の安全管理 ⑨家庭地域との連携 ⑩情報化推進 ⑪工業教育 ⑫商業教育		
評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
学校運営① (教務部)	1 授業と行事の総合的バランスをとることに努める。	1 学習指導部、特別活動部と連携し年間行事予定と特活・L H Rの調整を図り、授業時数の均等化に努める。 A；授業時数の均等化が図れた。 B；2/3の学期で均等化が図れた。 C；2/3の学期で均等化が図れなかった。 D；全学期で均等化が図れなかった。	B	各部と連携し授業時数の均等化が図れた。全体的に見ると、曜日によって1～2回程度の差が生じた。
学校運営① (学年部)	2 学年間の連携強化に努める。	2 学年間（学年主任間）の連携を密にし、学年間の共通理解を図る。 A；随時連携し、十分共通理解が図れた。 B；学期毎に打合せを行い、共通理解が図れた。 C；年間を通して、学年主任間で数回打合せを行い、共通理解が図れた。 D；学年間の共通理解が不十分であった。	C	学年間の主任レベルでの情報共有や交換はできたが、学期毎の実施はできなかった。
学習指導② (学習指導部)	3 真剣に授業に取り組む態度を育成し、基礎学力の定着を図る。	3「チャイム to チャイム」の実践により、時間を守って積極的に授業に参加する態度を育成する。 ○アンケート(10)において「授業準備をし、始業チャイムのときには着席している」の回答が、 A；90%以上 B；85%以上 C；80%以上 D；80%未満	B	「チャイム to チャイム」がかなり定着してきた。生徒も教員も意識が高まってきている。
	4 学習意欲をかきたて、自ら学習する態度や習慣を育てる。	4 家庭での学習習慣の形成の定着を図り、定期試験に臨む意欲や意識を高め、1・2学期末の欠点数を減少させる。 ○1・2学期末の欠点数が総数の A；1%未満 B；3%未満 C；5%未満 D；5%以上 【アンケート(5)(11)】	A	保護者を交えての指導件数が増えた。特定の生徒が複数の欠点を抱える傾向が見られる。
生徒指導部③ (いじめ防止対策)	5 いじめの早期発見、いじめの再発を防止するための取組を強化する。	5 生徒との面談やアンケートを通していじめの早期発見や解決を図る。 A；各機関と連携を図り十分に対応ができた。 B；各機関と連携を図り対応ができた。 C；概ね対応ができたが、継続指導中。 D；十分な対応ができなかった。 【アンケート(13)】	B	面談やアンケートを通して、生徒の状況や悩みを把握できている。また、アンケートの追調査により対応できている。

評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
生活指導③ (生徒指導部)	6 学校生活への適応と基本的生活習慣の確立のため指導の充実に努める。	6 生徒の基本的生活習慣の確立のため指導の充実に努める。 ○生徒アンケート(2)「欠席や遅刻、服装や頭髪など学校の規則を守る」に関する結果から 「あてはまる」「だいたいあてはまる」が A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	B	学科・学年・HRで指導できている。しかし、遅刻や服装頭髪が整っていない生徒への未然の対応はさらに必要である。
	7 交通安全教育の充実及び指導強化を図る。	7 HR活動・特別活動を通じて交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を目指す。 ○重大な交通事故発生件数が昨年度より A ; 大幅に減少した B ; 多少減少した C ; 同程度だった D ; 増加した 【アンケート(3)】	B	HR活動・特別活動を通じて指導はできている。しかし、登下校にて、交通マナーの苦情はあるので、さらなる未然の対応は必要である。
進路指導④ (進路指導部)	8 組織的な進路指導を推進し、望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、主体的な進路選択のための指導・援助に努める。	8 進路指導部・各担任・各学科・各教科等が連携し、個別指導を重視した進路指導に取り組む。 ○連携した指導及び個別指導を重視した指導に取り組み、希望進路実現率(第一希望)が、 A ; 進路実現率 90%以上であった。 B ; 進路実現率 85%以上であった。 C ; 進路実現率 80%以上であった。 D ; 進路実現率 80%未満であった。 【アンケート(12)】	A	進路実現率は92.6%であった。今後も早期に離職しない指導を継続していきたい。
特別活動⑤ (特別活動部)	9 部活動の加入・定着を促し活性化に努める。	9 部活動を知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むための重要な機会ととらえ、部活動紹介や広報活動などを活発にし、定着率のアップを図る。 ○1年生の年度末に部活動定着率が、 A ; 7割以上 B ; 6割以上 C ; 5割以上 D ; 5割未満 【アンケート(15)】	C	部活動加入率は6割程度だった。特活部だけでなく、学年との協力が必要であると感じる。
読書指導⑥ (学習指導部 図書管理係)	10 図書館及び図書利用の活性化を図る。	10 図書委員会で「図書館だより」を発行するなど、広報活動を充実させ、図書館利用の推進を図る。 ○図書館利用の生徒・教科・クラスが A ; 昨年より多くなった。 B ; 昨年と同程度であった。 C ; 昨年よりやや減少した。 D ; 昨年より大幅に減少した。	C	貸し出し数が前年度比 25%減であった。 図書館だよりを作成したり図書委員だけでなく先生方からも図書館を利用するよう呼びかけていきたい。
健康指導⑦ (学校安全部 健康指導係)	10 自己の健康状態に関心を持ち、自ら適正な健康管理ができる姿勢を育む。	10 保健室利用者への個別指導および教科での安全な活動を行うための指導を充実させ、個々の怪我の防止に努め、生徒の自己管理能力を高める。 自己管理の意識が向上し、保健室利用者数(外科)が昨年より A ; 大幅に減少した(-15%以上) B ; 多少減少した(-10%以上) C ; 同程度だった D ; 増加した(+10%以上) 【アンケート(13)】	B	生徒の自己管理能力を高め少しずつ健康管理の意識が向上したが、更に徹底したい。

評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
施設設備の安全管理⑧ (学校安全部 施設設備係)	11 省エネルギーを 実践する姿勢を育成し、 職員・生徒の主体的 省エネ行動を推進する。	11 施設の整理整頓に努め、 不要な照明の消灯、冷暖房 温度の適正維持等を職員、 生徒が実践することにより、 消費電力を削減する。 ○生徒アンケート(4)「進ん で教室等の整理整頓と省エネ ルギーの実践」に関する結 果から「あてはまる」「だ いたいあてはまる」が A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未 満	B	職員の意識はかなり高 かったが、生徒のアン ケート結果ではまだまだ 意識が低いので、指導 が必要である。
家庭地域との連携⑨ (渉外部)	12 P T A との連 携を強化し、P T A 活動の活 性化に努める。	12 P T A 各行事の運 営について改善を図り、 保護者の参加率を高め る。 A ; 大幅に増加した。 B ; やや増加した。 C ; 変 わらなかった。 D ; 減 少した。【アンケート(15) 】	C	新たな事業も導入され たが、参加保護者は少 なかった。今後の P T A 活動の在り方について、 引き続き検討していく。
情報化推進⑩ (教務部 スキルアップ係)	13 情報機器を 活用した授業の推 進を図る。	13 教職員対象のスキ ルアップ研修を計画し、 実施する。 A ; 年間 6 回以上実施 した。 B ; 年間 4 回以 上実施した。 C ; 年間 2 回以上実施した。 D ; 年間 1 回以下実施した。	B	先生方のスキルアップ となる研修を、数多く 実施することができた。 次年度も更にスキルア ップとなる研修を計画 したい。
工業教育⑪ 商業教育⑫ (専門部)	14 生徒が所属 する学科の基礎的 ・基本的な学習 内容を確実に身に 付けさせる。	14 専門性を高めるた めの資格に対して、取 得のために真剣に取り組 む姿勢および家庭学習 の習慣化を図るなど、 主体的な学習態度を育 成する。(技能検定、情 報技術検定、測量士補、 2 級施工管理技術検定、 第二種電気工事士、パ ソコン利用技術検定、 全商協会検定 1 級 3 種目以上等) ○検定や資格の取得率 が A ; 前年より 20%以上 向上した B ; 前年と同 様であった C ; 前年よ り 20%程度低下した D ; 前年より 30%以上低 下した【アンケート(6) (7)】	B	ギガタブ等の活用を検討 していく必要がある。
	15 各種大会や上 級資格に積極的な 取り組みをさせる。	15 各種大会での上位 入賞や上級資格取得の ため、地域産業界の人 材を活用する。 ○地域産業界の人材活 用が A ; 前年より増加した B ; 前年と同様であ った C ; 前年より低下 した D ; まったく活用 できなかった	B	今年度は全国産業教育 フェアが栃木県で開催 されたので、運営の準 備等に時間を割かれた。
	16 キャリア教育 を充実し、地域 社会の発展に寄与 できる人材を育成 する。	16 インターンシッ プ事業やキャリア形成 支援事業等をととし て、社会人としてのマ ナーと主体性、実行力、 コミュニケーション能 力の向上を図る。 ○生徒アンケート(1)の 「言葉遣いや礼儀など、 社会人として必要な マナーや能力を身に付 けるように努めている」 に関して、「あてはまる」 が、 A ; 90%以上 B ; 85% 以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	A	事前・事後の指導およ び、企業側の指導もあ り十分な向上が図れた。